

# ふくしま 再生 短信

9 / 24 野草班 調査 同行 記



【中央写真】クリイガのサンプル。

【右段写真上から】北側ゲート近くから福島第一原発を望む。鳴原邸でアケビ採集。自宅を改築中のAさん宅に集う再生の会のメンバーたち。

【左段写真上から】浪江町側の「分断」ゲート。鳴原邸内の線量モニター。サンプリング作業中の野草班。

## ✧ 長泥の人と自然 ✧

長泥地区は飯舘村最南端にあり、いわきから山形県南陽市へ南北に走る国道399号線と二本松から南相馬に至る県道62号線とが丁度交差する「戦略上の要衝」に位置する。飯舘村20の行政区の中で唯一「帰還困難区域」に指定されている。

2016年9月24日午後1時27分、記者は野草班（チームリーダー：森本晶子さん）に同行して長泥地区に入った。帰宅困難区域は住民を除いて入場はみとめられていない。この日の調査は長泥地区への情報提供を目的しており、区長の鳴原良友さんの好意により実現した。野草班は村内のコケ、果実、野草などの植物全般の観察・記録・採集・放射能調査を継続してきた。放射線モニタリング（チームリーダー・小原壮二さん）

を既に実施している鳴原邸から資料採集を開始。たわわに実ったアケビが印象的だ。地区内を回って1時間、感動の出会いが待っていた。

「Aさん」という男性が自宅の改築作業を地道に続けていた。先祖は戦時中に空襲で疎開してきた

「新住民」とのこと。「帰宅困難」の中で真っ直ぐに生きている。地区の南端で浪江町との境界のゲートに達した。長泥のゲートの内にいると思っていたら浪江のゲートの外にいた。内と外がこんがらがって何とも奇妙な錯覚にとらわれた。宗夫さんはゲートを「分断の象徴」と呼ぶ。分断に次ぐ分断が進行していた。蕨平に通じる東側の無人ゲート前を經由して約束の午後4時に339号に通じる北側ゲートから退出した。

菅野千恵子さんは野草班の一員としてこの間活躍中であり、この日も力強い応援者として同道していたことを特記しておきたい。（文責&撮影・若林一平）



トヤマシノブゴケ



鳴原さん（10/23東大）



74世帯281人の思いを綴る。長泥記録誌編集委員会編、芙蓉書房出版、2016年刊。